

取締役社長 姥貝 卓美 2013年新年挨拶 (抄)

三菱樹脂株式会社

昨年、管材事業の譲渡という大きな決断をし、アルミナ繊維の増設や農業用フィルム
の中国進出、Lib用セパレータ新工場の竣工など、将来を見据えた投資を敢行した1年
であった。三菱樹脂グループを継続的に成長させ、収益力を備えた会社にしていくため
には、投資は必要である。今後も厳しい眼で投資の可否とタイミングを判断していきたい。

世界経済は、先行き不透明で、先進国は低迷、新興国は成長の鈍化が足元に迫ってき
ている。また、日本は、自民党政権のもとで、今こそ復興需要の加速化と新たな成長戦略の
実行が求められている。当社を取り巻く事業環境もめまぐるしく変化し、当面は厳しい状
況が続くだろう。しかし、いかなる局面においても景気に頼ることなく、環境変化を前向
きに捉え、振れ幅を少しでも小さくコントロールできる力<耐性力>を各事業がつけてい
くことが大切である。

ポリエステルフィルムは、中国・蘇州の工場の稼働を予定している。日本・アジア圏、
米国、欧州の連携をより強化し、グローバル戦略を推進していく。また、クオドラント社
との連携や事業のシナジー発現のための活動も強化していく。グループ全体でグローバル
展開を強化していくが、まずは、国内・海外拠点の夫々が自らの事業をしっかりと運営し、
その基盤の上に相互のポテンシャルを発揮し、シナジーの発現を加速させていくことが大
切である。経営としては、グローバル経営の横串組織機能を強化する仕組みづくりにもし
っかり取り組んでいきたい。さらに、三菱ケミカルホールディングスグループとしても、
各社間のシナジーを挙げていけるように取り組んでいく。

マクロ経済の先行きが不透明とは言っても、私たちを取り巻くビジネスチャンスは沢山
ある。私は、事業が大きく健全に育っていくことこそが、社員の活躍するフィールドを拡
げることに繋がるのだと考えている。そのために、将来の事業を強く、大きくするための
資源投入は継続していくが、変化する事業環境に適応するべく、事業内容が変わらざるを
得ない部分があるのも事実である。環境変化に対応する<耐性力>を育成し、国内外で事
業を<拡げていく>必要がある。温めてきた想いや構想を実現するために行動を起こす年、
大きな転換の年とする。そんな決意を込めて今年も皆さんと明るく頑張っていきたい。

以上

本件に関するお問合せ先
(株) 三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室
電話：03-6748-7140